

- ろに落ちないように留意することとした。
6. 地学関連学会連絡協議会の申し合わせ案について
同協議会から、協議会の設立趣旨、構成、運営等についての申し合わせ案が提案された件につき、常任理事会として討議。一部の修正が必要と思われる箇所を除いて、提案のとおりで良いとの結論となった。1月29日に予定されている協議会の次回会合で討議される。
7. CCC 電子アクセス契約について
CCC (Copyright Clearance Center) 電子システムによる論文誌の参照支援業務については、CCC と学協会の間で電子アクセス化のための複製権および有線送信権の権利委託契約が必要であるが、これについて CCC から学協会著作権協議会に仲介依頼が

あり、同協議会から説明資料の送付があった。この取り扱いについて常任理事会として討議。

気象学会はすでに著作権協議会と複写権についての契約を結んでおり、今回の件についても同協議会の仲介を依頼した方が便利であると考えられる。庶務担当理事が協議会と連絡を取り、契約を進める方向で協議することとした。

8. 1996年度事業計画案・予算案について
事務局で用意した草案について討議。今後も引き続き常任理事会で詰めていくこととする。
9. 第28期第2回評議員会について
1月22日を第1候補に、1月18日を第2候補に各評議員の都合を事務局で聞くこととした（その後、1月23日を第1候補とすることに変更された）。

1996年度日本気象学会春季大会シンポジウムのお知らせ

1. 日 時：1996年5月22日（水）13：00～15：00
2. 場 所：大宮ソニックシティ・小ホール
3. テーマ：雷雲
4. 司 会：北川信一郎（中央防雷㈱）
5. 講 演：
- 1) 仲野 實（豊田高専）：雷雲の電気構造と落雷の発生
コメンテーター：村上正隆（気象研）
- 2) 上田 博（北大）：ダウンバースト
コメンテーター：中村晃三（東大海洋研）
- 3) 吉崎正憲（気象研）：雷雲の発生環境について
コメンテーター：小倉義光（気象協会）
- 4) 福西 浩（東北大）：雷放電に伴う中間圏・電離圏の発光現象
コメンテーター：早川正士（電通大）

6. 解 説

1996年度春季大会は埼玉県大宮市で開くことになったことから、地元身近な「雷雲」をテーマに選びました。

埼玉県・群馬県・栃木県など関東地方内陸部は、毎年夏期に、発達した積乱雲に襲われ局地的に雷・雹・集中豪雨・突風などによる家屋・作物や人的被害が起こります。近年、ドップラーレーダーや二重偏波レーダーなどの新しい観測器の登場や数値シミュレーションの発達と共に、積乱雲に伴う諸現象の解明が進んできました。また、雷放電に関しては、雷雲から電離層への放電などの意外な現象も見つかってきています。このシンポジウムでは、積乱雲や雷・雹・突風などのメカニズムが現在どの程度明らかになっているか、またこれらの知識をもとにしてどの程度予報可能かを議論したいと思います。